ルワンダ・モデルビレッジ事業
ー災害や貧困に負けない村づくりー

社会課題（SDGs: Sustainable Development Goals）

ルワンダは1990年代の内戦が終結して以降、急速な経済発展を遂げており、「アフリカの奇跡」と呼ばれています。一方で、**人口の8割が暮らす農村部**では、高い貧困率、社会インフラの未整備による安全な飲料水やトイレの不足、感染症、そして気候変動の影響による自然災害といった**複合的な社会課題**に直面しており、首都キガリとの**著しい経済格差**が生じています。

赤十字の解決策

吉田拓
日赤ルワンダ現地代表部
首席代表

地域全体のレジリエンスを強化し、社会課題の解決を目指します

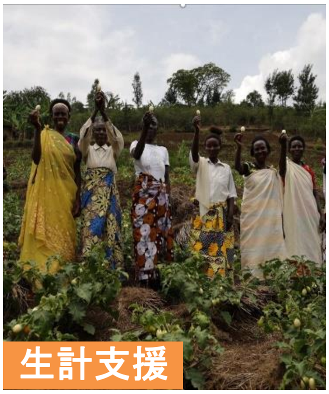
- ◆ **対象は？→** 気候変動の影響による自然災害や貧困などに直面する人々
- ◆ **体制は？→** 日赤現地代表部を設置し、実施主体であるルワンダ赤十字社を支援
- ◆ **実施方法は？→**住民参加型の村落開発活動「モデルビレッジアプローチ」を活用。
- ◆ **活動内容は？→**保健・衛生・水・暮らしなど生活環境の向上を目指した総合的な支援

水汲みから解放し、衛生的なトイレを普及します

・給水設備の設置・維持管理
・世帯向けトイレの改装
・公共トイレの設置

森を守り、自然災害に備えます

・地滑り対策、苗木の育成・植林
・バイオマス燃料の製造
・保温技術・器具の普及



収入源を確保し、貧困を断ち切ります

・家畜の提供
・菜園の普及
・貯蓄融資制度の利用

健康や防災への意識を高め、将来につなげます

・移動式映画館、ラジオ放送
・栄養指導、料理教室
・ボランティア育成、支部強化

写真 ©Atsushi Shibuya/JRCS

目標額：
3,000万円

【SDGsとの関係性】

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

社会的なインパクト

事業2年目にあたる2021年度は、村の課題に立ち向かうコミュニティ活動が本格化

- 受益者世帯に対して調理器具を提供するとともに、農畜産業に関する研修を実施。併せて、野菜の種を配付し料理教室（栄養指導）を通じた実践指導を行い、対象地域の全世帯で家庭菜園が作られ、特に子どもたちの栄養改善に繋がっています。
- 地域内に貯蓄融資グループが構成され、以前では困難だった生活必需品の購入など、住民たちの日常のニーズを満たすよう運用されています。
- ボランティアや防災対策チームへの防災・救急法に関する研修を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を継続。ラジオや巡回宣伝車、世帯訪問を通じて地域のすみずみで予防啓発を実施し、住民への正しい知識の普及と行動変容に貢献しています。

（写真右）四方を囲まれ安全性が向上した新しいトイレ
（写真下）アマランサスという雑穀を家庭菜園で育てるルワンダの女性

（写真上）救急法研修には、防災対策チームやボランティアらや100人が参加。
（写真左）ボランティアや関係者総出で約5万本の苗木が山肌に植えられた。

受益者の声

栄養教室はとても役立っています。緑色野菜やジャガイモ、マメを組み合わせれば良いことや、手に入る食材で料理に変化をつけられることを学びました。また調理の前に食材をよく洗い、台所や調理器具を清潔に保つことを学びました。

ドゥセンジマナさん

貯蓄融資グループを通じて少額のお金を借りられるので、かつてのように石鹸を買うお金がなくて汚い衣服を着ないですみます。またルワンダ赤が建設支援をしてくれた新しいトイレで衛生環境が良くなりました。

フランソワ・マクミさん

皆様のご寄付でできること　例えば・・

◆ **100万円**　→　感染症や防災対策などに関するラジオ放送40回
◆ **500万円**　→　安全で衛生的なトイレ800基の建設

写真 ©ルワンダ赤十字社/日本赤十字社